CO-BO「貧困世帯の子どもたちが直面する就学・進学の困難」という社会問題構造の仮説（α版）

何が起きているのか

■ 貧困が子どもの低学力に結びついてしまっている
■ 就学・進学の意欲の低下や低学力は、将来の低収入や不安定就労へと結びつきやすく、子どもの選択肢を狭めてしまう

なぜそれが起きているのか

直接的な原因

親が貧困、家にお金がない
- 親が低収入・不安定な職についており、家計が苦しい
- 塾代がねん出できず、塾に行けない
- 入学金等、進学時に必要なお金が払えないため進学を諦めざるを得ない
- 弟妹の就学・進学のため、自分の進学を諦めざるをえない

学習意欲や進学意欲の低下
- 空腹だったり、体調不良だったりして勉強する意欲がわかない
- 貧困が理由でこれまでさまざまなことを諦めなければいけなかった経験から、進学への意欲を持ちづらい
- 親をはじめ、身近なところに勉強を見てくれる人や相談できる人がおらず、勉強をする意欲を持ちづらい
- 高校や大学への進学を進めてくれる大人がいなかったため、自分が進学できると思っていない

進学するための情報がない
- 模擬試験を受けたこともなく、「偏差値」の意味も知らない
- 奨学金に関する情報や、各種支援策を知らない

学力がない
- 勉強のできる環境にいなかったため、勉強をする習慣が身についていない
- 小学校低学年の頃から授業の内容についていっておらず、基本的な学力が不足したまま成長してしまっている

原因を生む背景

学歴偏重社会
- 学歴が高いほど高収入かつ正規雇用に就きやすいという、学歴偏重社会が根強く残っている

制度が「貧困」を生んでしまう社会
- 日本は教育に対する私費負担の割合が大きく、所得格差と教育格差が結びつきやすい
- 貧困状況にある子が利用できる無利子・無条件の奨学金のような、貧困状況にある子を対象とした進学支援策が不十分

「貧困問題は学歴問題」だという指摘があるが、貧困に関する各種調査で学歴データがとられることは少ない

親の孤立と子どもの孤立
- 親自身が他者と関係を築きづらく、支援要請の声をあげづらい。親の孤立は子どもの孤立も招く

他者との関係性の希薄化や、社会的弱者が声を上げづらい社会構造も要因のひとつ

「貧困」への無理解や自己責任論
- 貧困から自力で抜け出すことが難しいにもかかわらず「自己責任」と言い放ったり、貧困状態の人を「貧困でない」と見なしたりする風潮や、社会的分断の拡大から、当事者が声をあげづらい

「やり直し」をしづらい社会・風潮
- 進学や就職ルートが画一的で、進学や就職に関するやり直しが許容されにくい

ホームレスを「貧困ではない」という人が３割以上という調査もあり、日本人の「貧困観」は揺らいでいる

なぜそれが問題なのか

貧困は連鎖する傾向があり、一度この連鎖にはまってしまうと自力で抜け出すことが困難。その結果貧困の子が再び貧困家庭を築くことになってしまう

日本は所得再分配機能が弱く、連鎖を止めるための有効な社会政策が少ない

貧困が理由で健康悪化、低学歴、不安定収入等に陥り、生活保護を受給せざるを得なくなる人が増えると、結果として社会的コストは増える

子どもの頃の貧困は心身の健康面や学力面、また生活習慣の取得等多方面にマイナスの影響を与えることが分かってきている

貧困解消にかかるコストは未来への投資だという人もいるが、社会的なコンセンサスは得られていない

子どもには等しく教育を受ける権利があるはずだが、「貧困」が理由でその権利を奪われてしまっている子がいる

子どもの権利条約28条には「教育への権利」があり、批准国である日本はこの権利を保障しなければならないはずである

他の社会問題との関係・つながり

- 若者の非正規雇用やワーキングプアの増加
- 所得による教育格差の拡大や所得格差の固定化
- 大人の働き方（男女間の賃金格差、長時間労働問題等）
- 社会保障費や生活保護の増加

現時点での取り組み

行政 「子どもの貧困対策の大綱」をベースにした、多方面からの支援

大綱の曖昧な数値目標や実現性に疑問を呈する関係者も

社会 支援団体や市民ボランティアによる無料の学習支援や課外活動の実施、フードバンク等の企業を巻き込んだ支援のしくみの確立

「支援関係者の貧困」も課題に

対象となる子どもの数が多すぎて、民間団体だけでは支援しきれない

今見えてきていること

- 「子どもの貧困」というキーワードは多くの人に認識され、解決しなければという意識も高まり、活動も広がってきている
- さまざまな支援策と他者との関係性構築によって、貧困世帯に生まれても、その苦境をバネに活躍する子がいる

「子どもの貧困」のみが問題視されることへの懸念の声もある

ただし、一部には「貧困から抜け出せないのは本人の努力が足りないからだ」と言い放つ人も

考えてみよう

■仮説で描かれた「社会問題の構造」について、あなたが気になった部分はどこですか？それはなぜですか？
■気になったことに対して、あなた自身ができそうなことはありますか？

2015年3月作成 ベネッセ教育総合研究所